

県南思考 Vol.21

特集：台風、その巨大な爪あと

昨年10月23日未明、950hpaという巨大な勢力を持ったまま静岡県御前崎に上陸し、全国各地に猛威をふるった台風21号。南房総の一部では避難勧告が出され、道路が通行止めになるなど、市民生活は大きく混乱しました。その後、日が経つにつれ拡大してきたのが農業、漁業の被害。塩害によって枯れる農作物が続出し、漁港では岸に漁船が打ち上げられ、流れこんだ流木で港が使えなくなるなど深刻な事態をまねきました。基幹産業として、ともに南房総の経済を支えている農業と漁業。復旧に向けた足取りを追跡しました。



特集：台風、その巨大な爪あと

はげしい風雨、高潮、塩害で、農業、漁業に深刻なダメージ。これほどの被害は誰にも予想できなかつた。

重なった悪条件

南房総市白浜の名倉漁港。台風 21 号が過ぎ去った昨年 10 月 23 日の朝、港の様子を見に来た漁師たちの目の前に広がっていたのは、かつて見たこともない光景でした。

まるで巨大な渦でかき回されたように船がぶつかりあい、漁具を収納した倉庫は全壊、もしくは半壊。建物の中は漁具類やゴミが散乱し、もちろん海水で水びたし。「長いこと漁師やってるけどねえ、こんなことは生まれて初めてだわ」と、皆さんのが声をそろえるほどの惨状でした。

被害をもたらした原因は異常とも言える高潮。

台風の接近で気圧が下がると、海面は吸い上げられるように盛りあがって高くなります。その高さが今回は 174 センチという、気象庁が過去最高と発表したほどの異常潮位。「そこにたまたま満潮が重なり、ふだんよりグンと高くなつて、それが強風によって巨大な波となって次々と押し寄せた。あらかじめ台風が来るとわかっていたので陸に船を上げてロープで固定していたんですが、それごと引きちぎられるほどの強烈なエネルギーだったんです」

と、東安房漁業協同組合の佐藤光男組合長。

護岸の破損など、被害を受けた範囲は保

田、鋸南から鴨川まで南房総全域におよび、とくに被害が大きかった南房総市の港だけに限ってみても、被害額は 1 億 8000 万円にのぼると推計されています。

生育中の農作物を直撃

台風は畑の農作物にも大きな被害をもたらしました。

最大瞬間風速 37.3 メートルの強風。その風で多くのハウスでビニールが破られ、生育していた農作物もダメージを受けました。

主にストックやトルコキキョウなど、出荷用の花卉類を栽培している館山市神戸地区。「強い風が予想されるときは、ビニールをたたむ方法もあるんですが、今回のような台風だと、塩分を多く含んだ風雨に当たって枯れてしまう。だから、飛ばされるのは覚悟の上で、祈るような気持ちでいたんですが、3~4割のハウスで被害が出てしまいましたね（同地区花卉生産組合／早川組合長）」

一般に台風と聞くと、強い風で農作物がなぎ倒される状態をイメージしがちですが、今回、被害を大きくしたのは塩害でした。

海の飛沫を冲で強風が巻きあげ、そのまま強い塩分を含んだ雨風となって吹寄せてしまうのです。

当然、露地栽培の被害は甚大で、白浜地区で食用なばなを栽培している吉村吉男さんは、「雨自体は短い時間でやんだし、それほどの影響はなかったんですが、ベタベタするほど強い塩分を含んだ強風が、台風が去った後もしばらく吹いたので、せっかく育ちかけた苗が、その塩でほとんど全滅してしまったんです」



▲取り壊すしかないほどくずれた海女小屋に立つ両県議



▲(左から) 木下県議、東安房漁業協同組合の福原優一参事、佐藤光男組合長、三沢県議



▲被災直後の漁港ではどこも船は陸地に投げ出され建物は破壊されていた

と、当日の様子を振りかえります。

今回、通常より遅かった台風の上陸時期が、さらに被害を拡大させました。

農作物は、出荷時期から逆算して作業を進めるケースがほとんどで、ハウス栽培のストックは 8 月に種をまき 9 月に定植。食用なばなも年末年始の需要が高まるピークに合わせて栽培されていました。そこを台風が直撃したのです。

復旧に向けた県の対応

この台風によって県全域で約 46 億円にも



①ビニールが破れ塩分を多量にふくんだ雨水が生育中の苗に降りそそいだ②早川組合長から被害を受けたストックの説明を受ける木下県議③強風で破損したビニールの状態をチェックする三沢県議④意欲的にハウス栽培の再建に取りくむ神戸花卉生産組合の皆さん（両県議を中心に左から）鈴木政孝さん、鈴木隆彦さん、早川善行組合長、鈴木啓之さん

のぼる農業、漁業被害にあった千葉県では、被災現場に対する支援策を相次いで発表。

具体的には、相談窓口を設置し、共済組合や融資期間へすみやかな対応を要請。

また、施設の復旧、農作物の再生産にかかる資金を低利で融資する各種の災害資金の発動を決定するなど、生産者への財政支援を固めています。

これらによって漁業関係では、破損した漁港の修復がすすみ、漁船はそれぞれに掛けられた保険で修復。

農業関係ではビニールハウスの修復も共済保険でまかない、張替えも完了しています。

ただ、せっかく育てた農作物が全滅し、再び畠作りからやり直さざるを得なかった農家の方たちへの直接的な被害補償はありません。

また、漁船の中でも被害に差があり、簡単な修繕で漁に出られる船もあれば、大破、もしくは水没してしまい、廃船を余儀なくされるなど明暗が分かれてしまっています。

名倉漁港のように、ワインチが海水につかって故障したため、船を陸に引き上げることができず、台風以来、長期にわたって出漁できずに無収入を強いられてしまったケースも少なくありません。

こうした個々のケースに対しては補償するシステムではなく、生産者が被害をそっくりかぶらざるを得ないのが実状です。

農業、漁業は南房総の経済を支える根幹です。

復旧がすすまなければ、単にそれぞれにおいてマイナスだけでなく、観光を含めた地域経済に対し、大きな影響を及ぼしてしまいます。

そうさせないために、漁港ではいちはやく堆積した大量のゴミを漁師たちが総出で片づけ、船を修繕。農家の方々は畠を整備し種をまき苗を育て、栽培へと立ち上りました。

いつまでも被害を放置せずに、それを乗り越え、復旧に向けて前向きに取りくむ農業、漁業関係者のプライドと情熱。

大きな災害にあったとき、それを支援する



▲全滅した食用なばなの種を急ぎまきなおし畠の再生に取りくんだ吉村吉男さんに話を聞く



▲海岸沿いの観光花摘み農園は塩を含んだ強風をダイレクトに受け大きな被害を受けた

行政のバックアップが重要なことは言うまでもありませんが、市民ひとりひとりがその現状を知り、努力を理解することも重要です。

そうしたことが復旧にむけて取りくんでいる方々の背中をあと押しする、強い原動力のひとつになるはずです。

Pin Point

インタビュー

南房総市の農林水産課におたずねします。

地域の農業、漁業に大きなダメージを与えた台風被害。南房総市の被害実態と、いま、どのような形で復旧が進んでいるのか、農林水産課でうかがいました。

まず漁業関係の被害から教えてください

南房総の場合、今回、漁業関係で最も被害の大きかったのは白浜地区で、海女小屋、漁具倉庫など、14~5棟ある漁協施設の多くが取りこわさざるを得ない状況です。漁船に関しても白浜地区に集中し、破損したり水没してしまったり、被害額は3000万円を超えてます。また、富浦地区では海に浮かべた生簀が破損し、定置網の網が切れるなどの被害が出てます。それに對する支援策として、漁港施設となる防波堤や漁具倉庫などの共同利用施設は国の補助をうける準備を進めています。また、国の激甚災害指定によって、修復にかける補助金が増額されました。今回は流木など大量のゴミも発生したわけですが、特例として野焼きによって焼却処分を行い、プラスチック類などの廃棄物は市で引き受けて処分しています。

ハウス、露地物など農作物にも大きな被害が出たようですが

農業設備面の被害では、ハウスが壊れる、ビニールが吹き飛ぶ、温室でガラスが割れるなど、富浦地区をはじめ南房総市全域で被害が報

告されています。こうした被害に関しては、共済組合の保険でフォローされています。農作物では食用なばなの被害が最も大きく、12月のはじめから出荷を予定していたものが被害にあり、被害面積はおよそ27ha、金額にして1億円を超える大きなものになっています。キンセンカはお正月とお彼岸に需要のピークがあり栽培が進んでいたわけですが、海岸沿いに被害が集中していて、被害額はおよそ3500万円にのぼっています。ハウス内の農作物に対しては園芸施設共済の対象となって、ある程度は補償されますが、露地ものについては対象外で、どの農家の方もすぐに種をまき直す、苗を植え直すなど前向きに取りくまれてきていますが、過去の台風と比較して、今回は、場合によっては二ヶタ違うのではないかと思われるほど被害額が大きく、影響が心配されます。

早春の花摘みなど 観光への影響はありませんか

塩害のひとつとして、昨年の秋、もみじの名所として知られた小松寺で葉が落ちてしまい紅葉が楽しめませんでした。みかん狩りにも影響がでています。ただ、海岸沿いの観光花摘みなどの露地ものに関しては皆さん頑張って植え



被害状況について分析を行う(左から)三沢県議、木下県議、南房総市/農林水産部の塚田兼行部長、同農林水産課の宇山隆一係長、佐野章人係長

直していただいたため、多少の影響は出たものの、せっかく訪れた観光客が赤茶けた畠でがっかりするといった、そうした事態は招かずにはシーズンを迎えています。おみやげに買い求めていかれることが多い食用なばなについても、出荷量は減っているかもしれません、台風直後にすでにタネをまき直すなど対応が進んでいたため安定的に供給できています。漁業においても近海物では極端な影響は出ていませんし、夏にオープンする海水浴場も清掃が進んで開設に支障はなさそうで、全体として観光に対しては大きなマイナスにならないのではないかと考えています。

台風 21、22 号による農水産業への被害(千葉県全域)

項目	主な市町村	被害金額
農作物(キャベツ、だいこん)	銚子市、旭市	30 億 9,650 万円
園芸施設等(ビニールハウスの破損)	館山市、匝瑳市	3 億 3,849 万円
農地等(水路、農道、農地)	香取市、君津市	7,100 万円
林地等(防潮護岸の破損)	館山市	1 億 1,595 万円
水産業施設等(漁協施設、漁港、漁船)	館山市、南房総市	9 億 9,345 万円
合計		46 億 1,539 万円

(11月22日/千葉県農林水産部発表)

特集：台風、その巨大な爪あと

結びの対論

木下県議×三沢県議

100年にいちどと言われる今回の自然災害。
今後にそなえる意味でも、
県として、大胆な対応が必要でしょう。



木下 台風 21 号については、事前にニュースなどによって超大型だと知ってはいましたが、あれほどとは思いませんでした。

三沢 通過した後で館山の港の様子を見に行ったんですが、富崎、州崎、西川名、どこも船が大破し、堤防が壊れて、相当な被害でしたね。

木下 千倉で生まれ、千倉で育った私ですが、名倉漁港など、こんな港の状態は初めて見ました。

三沢 畑では、海から 3 ~ 40 メートルも離れているのに、大きな石がゴロゴロしている。海岸から飛ばされてきたというんですね。どの畠も何を育てていたのか、もうわからないくらい。とにかく、なんども台風を経験していますが、私もこんな被害が大きいのは初めてでした。

木下 今回は、雨よりも波の被害が大きく、過去最高というほどの高潮に満潮、そこに強い波が押し寄せるという、悪条件が重なってしまった。台風が来てハウスのビニールが飛ばされるといった被害は過去にも経験がありますが、漁協の建物が海水で押しつぶされるなどといった話は聞いたことがありません。

三沢 ゴミもひどかったです。いったいどこから運ばれてきたのかというほどの量が海岸をうめつくし、道路にまで相当な量があふれています。

木下 それにしても 10 月の末という、おそってきた時期も悪かったです。南房総の特産品である食用なばな、また、花卉類も出荷用、観光用あわせて年末年始の需要ピークに向けて生産されていたものが、台風の直撃で大きなダメージを受けてしまった。

三沢 せっかく育ってきた農作物がダメになっただけでなく、それを処分して、畠を作り直し、種をまき、あるいは苗を植えつけるといった余計な仕事を強いられてしまう。作業の負担はもちろん、金銭的にも負担は大きいですね。

木下 負担といえば、漁師の方々も、台風からだいぶ時間が経ってもなお、漁に出られない方がたくさんいましたね。

三沢 船が壊れた、砂がたまって港から出せない、など理由はさまざまですが、とにかく漁に出なければ収入になりませんからね。

木下 そうした方々に対するバックアップをどうするか。農業、漁業など、第一次産業は南房総の根幹ですから、影響は少なからぬものがあります。

三沢 今回の災害に対して、県はいち早く復旧のための資金を発動し、国の激甚災害を受けて、補助金の増額も決まりました。

木下 ただ、それは施設の修復や復旧に伴う制度資金の融資などが中心で、実際に船が壊れて漁に出られなかった人たちの生活補償や、

せっかく植えた農作物が全滅してしまった農家の方たちへの補償はどこも面倒を見てくれない。

三沢 漁師の方たちは船で海へ出ることができなければその間は無収入だし、台風でやられた畠だって、そこまで栽培するのに手間と費用がかかっているわけですからね。

木下 今回のように 70 年にいちど、100 年にいちどと言われるような大きな自然災害に対しては、県としても、なにか特別な対策を打ち出していく必要があるのではないかでしょうか。むしろ今回は、そのための絶好のチャンスだと考えるんですね。被害にあった地域に寄り添って、その訴えを聞き、解決の道を探るべきで、そうでなければ、いったい行政は何のためにあるんだということになるでしょう。

三沢 このところの地球温暖化の影響や異常気象の多発を考えると、また同じような規模の自然災害が起きうる可能性が高いはずです。そのことを世論に訴えるためにも、今回の大きな被害を広く世間に知らせる必要がありますね。

木下 先日、県会議員の何人かに港の被災状況の写真を見せたんですが、これは東日本大震災の写真ですかと言われたくらい認識は低かった。そうした背景もあって、12 月の県議会の代表質問で今回の台風被害を取りあげてもらいました。

三沢 それにしても、今回、お話をうかがった方々を含めて、みなさんパワフルに復旧に取り組んでいる。ビニールハウスの神戸地区など、うまく世代交代が進んで、若い世代が力を合わせて連携し、問題解決に立ち向かっている。

木下 若い人が育つと同時に、経験ある人たちにも負けずに頑張ってもらう必要があります。白浜で食用なばなを栽培している方も、78 歳というのにけっして負けずに種をまき直して、育てている。被害にあった畠をそのまま放置しているところはまず見当たりません。それぞれ第一次産業にたずさわっている方々のプライドなんですね。前向きに進んでいる。あの様子を見ると、希望を感じますね。

三沢 農業はあるところまで自力で修復できますが、漁業はやはり行政のバックアップがないと、おいそれと復旧はむづかしい。

木下 その意味でも、もっとスピーディーに手を打って、早く漁に出られるように手を差しのべることが必要でしょう。観光を含めて地域の経済を支えているわけですから。

三沢 最後にひとこと。今回これほどの被害があったにもかかわらず、お亡くなりになるなどの人災がなかった。それだけは不幸中の幸いでしたね。

木下 敬二（きしらけいじ）

南房総市・安房郡選出
昭和 23 年 5 月 17 日生まれ
事務所 / 〒295-0005
南房総市千倉町牧田 164-1
TEL : 0470-44-4111
FAX : 0470-44-4112
<http://kishitakeiji.com/>
e-mail : info@kishitakeiji.com

県南思考 Vol.21

発 行：2018 年 1 月 13 日
制 作：「県南思考」制作委員会
編 集：式守編集工房
デザイン：TMS
南の風を県政に。南房総選出の県議による「県南思考」は市民の皆さんとともに、県南のあるべき姿を追い求めていきます。本誌をお読みになった感想、ご要望、その他ご意見は各県議の事務所までお気軽にお寄せください。

三沢 智（みさわさとし）

館山市選出
昭和 29 年 11 月 14 日生まれ
事務所 / 〒294-0037
館山市長須賀 470-1
TEL : 0470-22-3051
FAX : 0470-22-3052
<http://misawa-satoshi.com/>
e-mail : office@misawa-satoshi.com